

# 「健康日本21」中間評価におけるデータ分析（たばこ）

平成17年4月21日

厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会資料

## 「健康日本21」中間評価におけるデータ分析(概要)

分野:たばこ		
目標項目:4.1 喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及 [知っている人の割合]		
目標値	策定時のベースライン値 (H10年度喫煙と健康問題に関する実態調査)	現状値 (H15年国民健康・栄養調査)
肺がん	100%	84.5%
喘息	100%	59.9%
気管支炎	100%	65.5%
心臓病	100%	40.5%
脳卒中	100%	35.1%
胃潰瘍	100%	34.1%
妊娠に関連した異常	100%	79.6%
歯周病	100%	27.3%
<b>データ分析</b>		
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データの比較は可能である。</li> <li>○肺がん、喘息、心臓病、脳卒中、妊娠に関連した異常、歯周病については、知っている人の割合が増加していたが、改善が見られない項目(気管支炎、胃潰瘍)もある。</li> <li>○知識の普及には男女差が認められ、改善傾向も男女で異なっていた。</li> </ul>	
留意点	○特になし。	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○喫煙は様々な害があるというメッセージをマスメディアを用いて啓発し、学校教育でもしっかり教えることが重要である。また、啓発メッセージについては男女別に重点項目を分けるべきかもしれない。</li> <li>○医療機関でも、目標項目となっている疾患への教育を徹底する必要がある。</li> </ul>	

分野:たばこ

目標項目:4.1 喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及 [知っている人の割合]

目標値	策定時のベースライン値 (H10年度喫煙と健康問題に関する実態調査)	現状値 (H15年国民健康・栄養調査)
肺がん 100%	84.5%	87.5%
喘息 100%	59.9%	63.4%
気管支炎 100%	65.5%	65.6%
心臓病 100%	40.5%	45.8%
脳卒中 100%	35.1%	43.6%
胃潰瘍 100%	34.1%	33.5%
妊娠に関連した異常 100%	79.6%	83.2%
歯周病 100%	27.3%	35.9%

データ分析

①ベースライン値と現状値の比較

調査方法、調査項目は同様であり、データの比較は可能である。

②データの経年変化を踏まえた分析

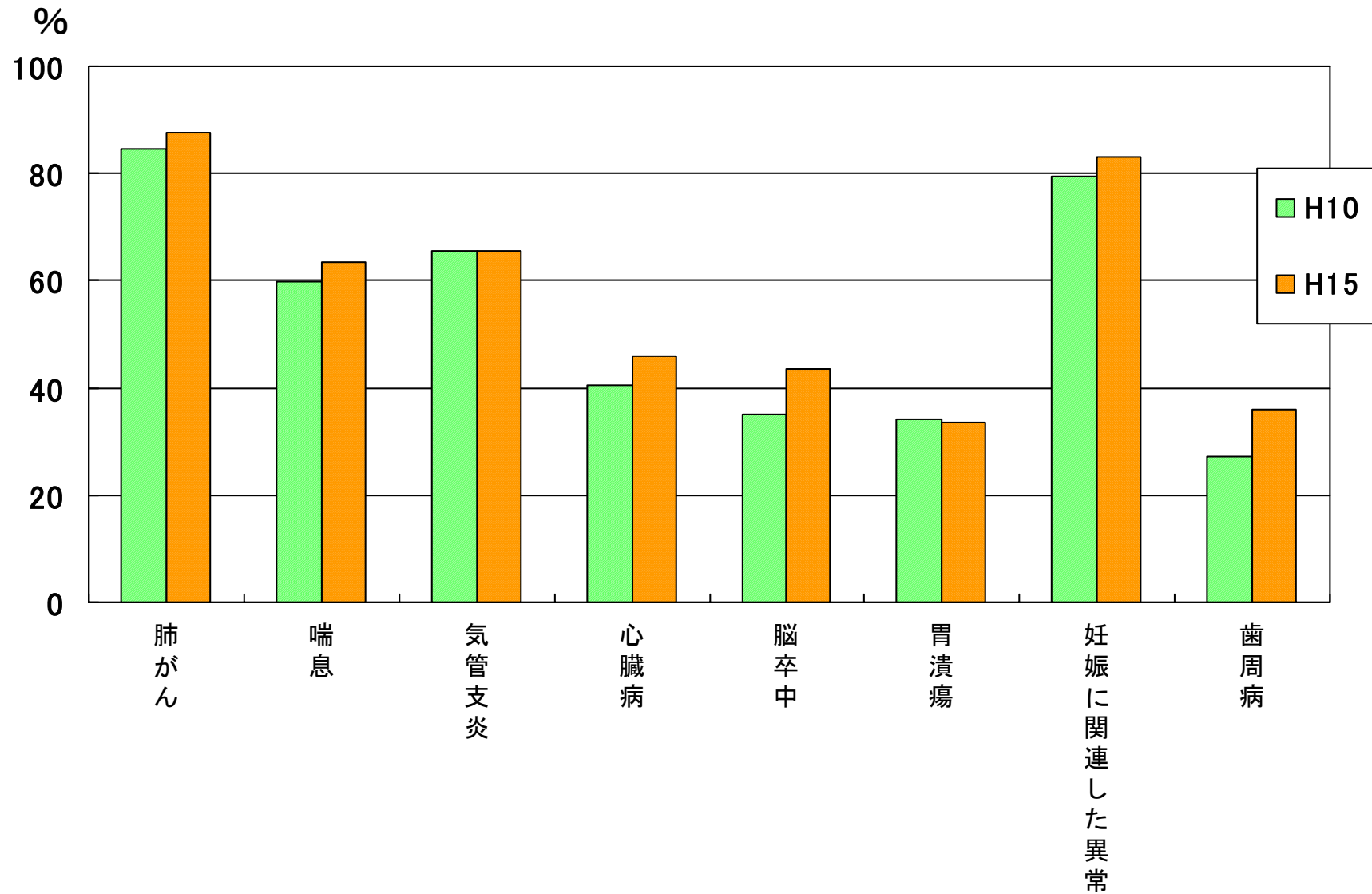
○ベースライン値と比較して、中間評価時点では、肺がん、喘息、心臓病、脳卒中、妊娠に関連した異常、歯周病について増加が認められた(図1)。

○平成10年調査と平成15年調査を比較して、知っている人の割合が高くなった割合が大きいのは、歯周病(8.6%)、脳卒中(8.5%)、心臓病(5.3%)であった。全体的に知識の普及は図られたが、まだ目標値には達していないし、改善が見られていない項目もある(気管支炎、胃潰瘍)(図1)。

(1)現状値に係るデータ分析  
(データの経緯変化を踏まえた分析や必要に応じ性・年齢階級別データ等による解析)

<p>(1) 現状値に係るデータ分析  (データの経緯変化を踏まえた分析や必要に応じ性・年齢階級別データ等による解析)</p>	<p style="text-align: center;">③ 詳細なデータ分析について</p> <p>○知っている人の割合が高いのは平成15年調査では、「肺がん」、「妊娠に関連した異常」、「気管支炎」、「喘息」の順であり、逆に割合が低いのは、「胃潰瘍」、「歯周病」、「脳卒中」であった(図1)。</p> <p>○男女差の比較をすると、女性のほうが「かかりやすくなる」と回答した人の割合が高い項目が多く、特に「妊娠に関連した異常」、「肺がん」、「喘息」、「歯周病」で差が大きかった(図2)。</p> <p>○平成10年調査と平成15年調査の男女差を比較すると、妊娠に関連した異常の男女差が縮まり、「喘息」、「気管支炎」、「歯周病」で男女差が開いた。平成10年では「心臓病」と「胃潰瘍」では男性のほうが「かかりやすくなる」と回答した人の割合が高かったが、平成15年ではその差はほとんどなくなった(図2)。</p> <p>○平成10年調査と平成15年調査の改善傾向を比較すると、男性では、「脳卒中」、「歯周病」、「妊娠に関連した異常」、「心臓病」、「肺がん」の順に改善傾向が認められ、女性では「脳卒中」、「歯周病」、「心臓病」、「喘息」、「肺がん」、「妊娠に関連した異常」の順に改善傾向が認められた(図2)。</p> <p>○平成15年調査を性別、年齢階級別にみると、若年の方が「かかりやすくなる」と回答した者の割合が高い疾病(肺がん、脳卒中、妊娠に関連した異常、歯周病)、高年齢のほうが「かかりやすくなる」と回答した者の割合が高い疾病(喘息、心臓病、胃潰瘍)、年齢はあまり関係ない疾患(気管支炎)に傾向が分かれた(図3～10)。</p> <p>○全体的に知識の普及は図られたが、まだ目標値には達していないし、改善が見られていない項目もある(気管支炎、胃潰瘍)。回答には男女差が認められ、改善傾向も男女で異なっていた。</p>
<p>(2) 上記データ分析に基づく今後の課題及び対策の抽出</p>	<p>○喫煙は様々な害があることを多彩なメディアを用いて啓発し、学校教育でもしっかり教えることが必要である。たばこのパッケージの警告表示のオプションを増やすことや啓発メッセージは、男女別に重点項目を分けるべきかもしれない。</p> <p>○医療機関でも、関連疾患への教育を徹底する(医療従事者の喫煙状況に関わりなく)必要がある。</p> <p>○喫煙率の低下と知識の状況に関連あるかもしれないので、厳密には喫煙の有無もふまえて解析した方がよいと思われる。</p>

図1 喫煙によりかかりやすくなると回答した者の割合



出典)平成15年 国民健康・栄養調査  
平成10年 喫煙と健康問題に関する実態調査

## 図2 かかりやすくなると回答した男女差と改善度

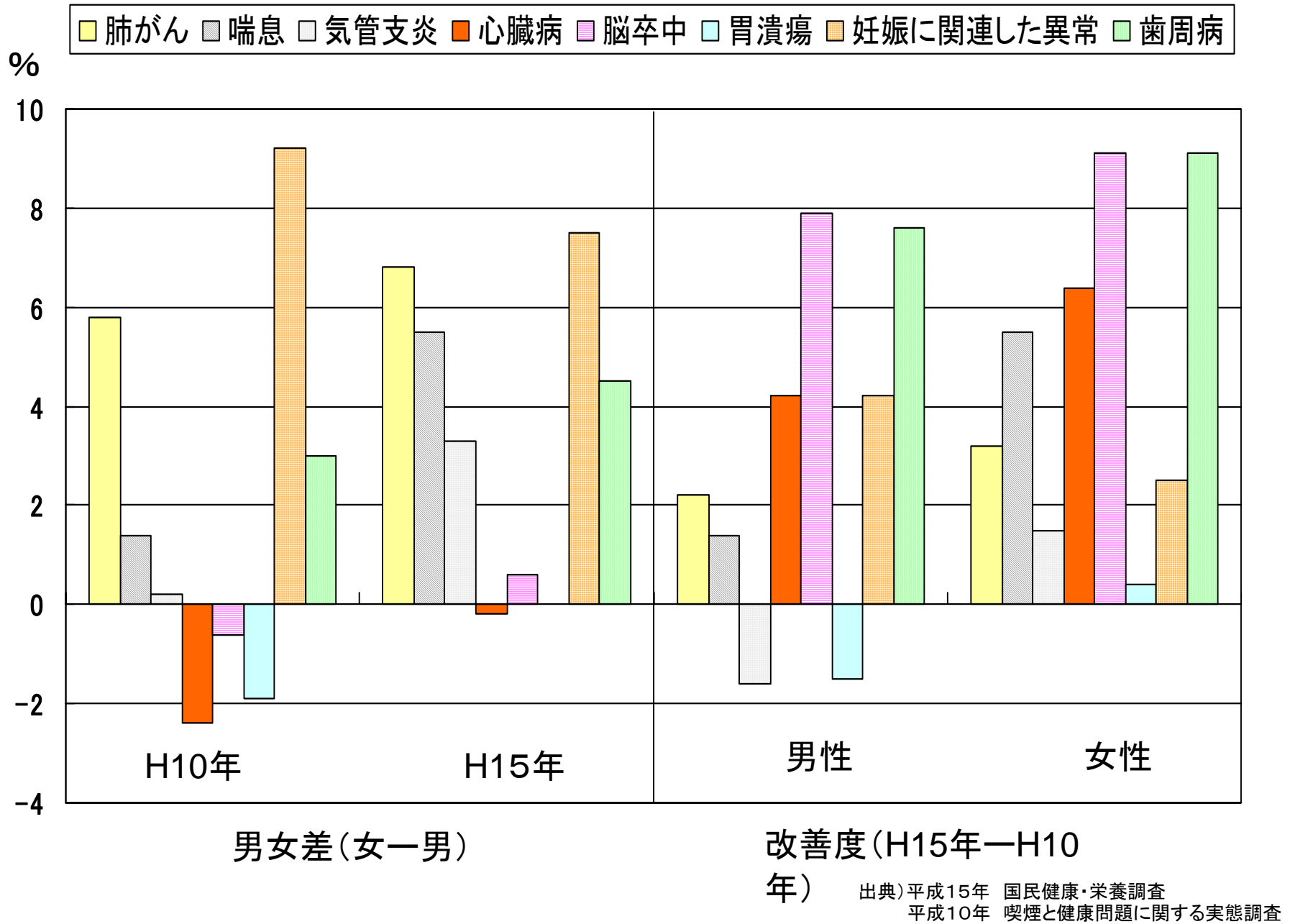
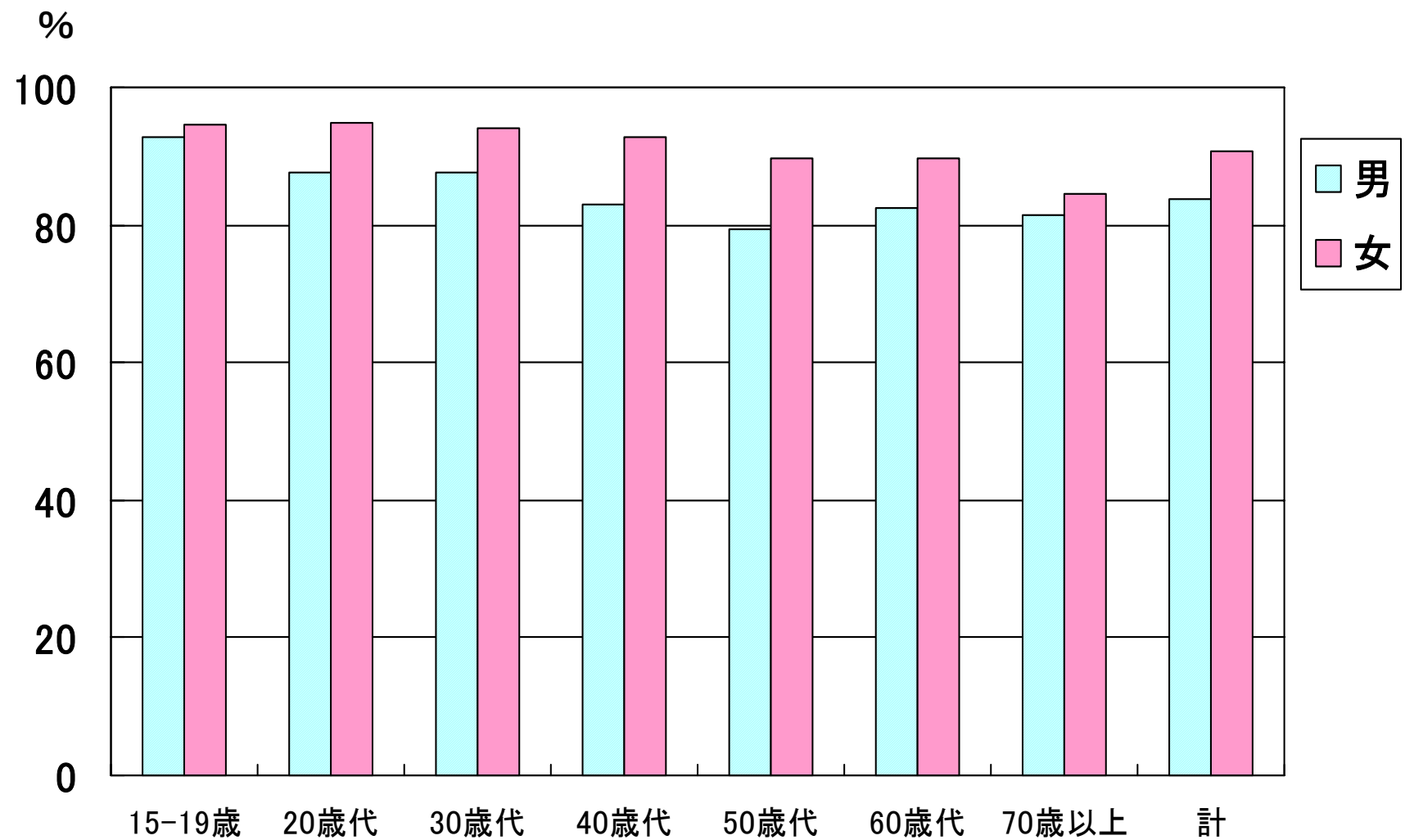
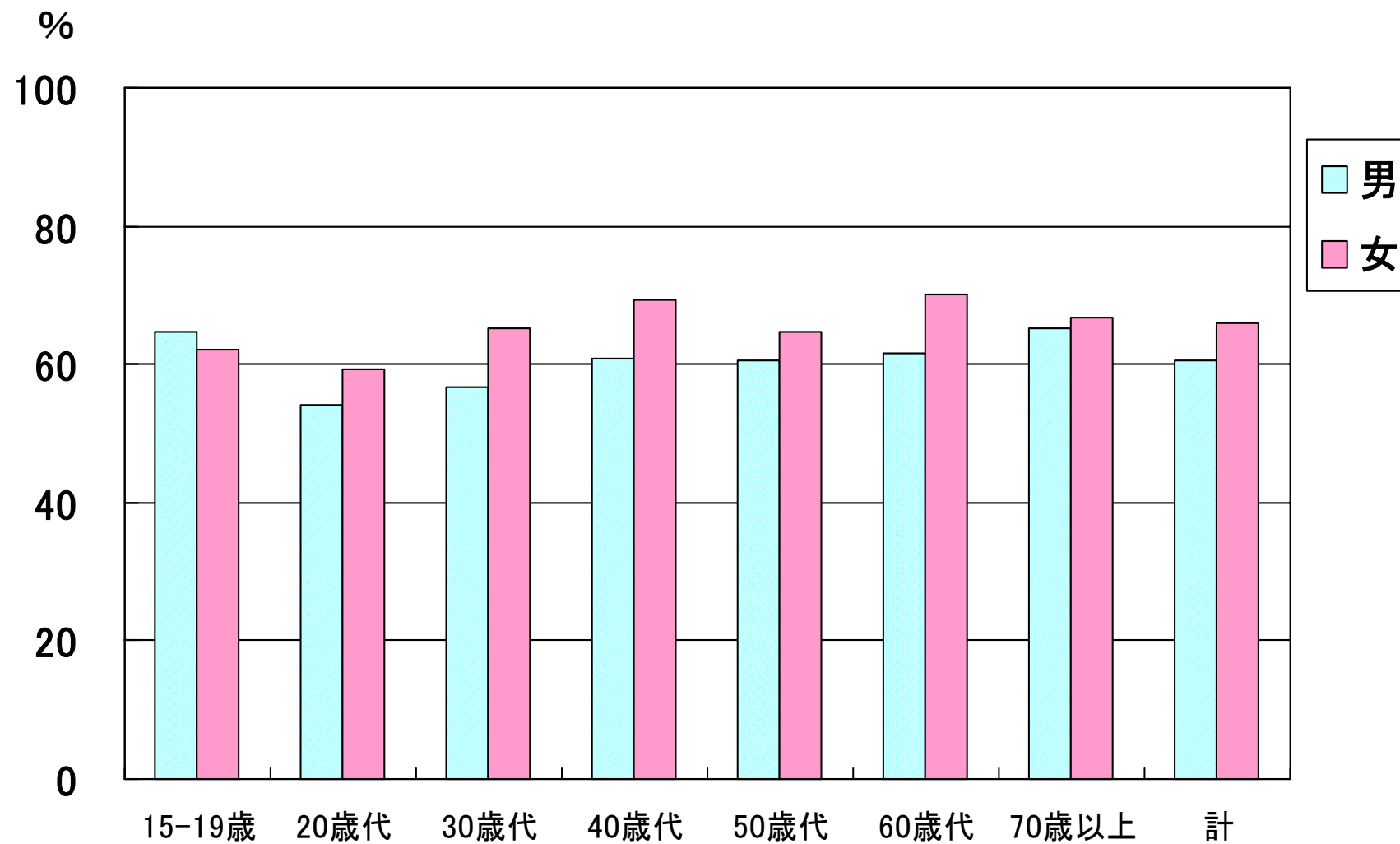


図3 喫煙により肺がんにかかりやすくなると回答した者の割合



(平成15年国民健康・栄養調査)

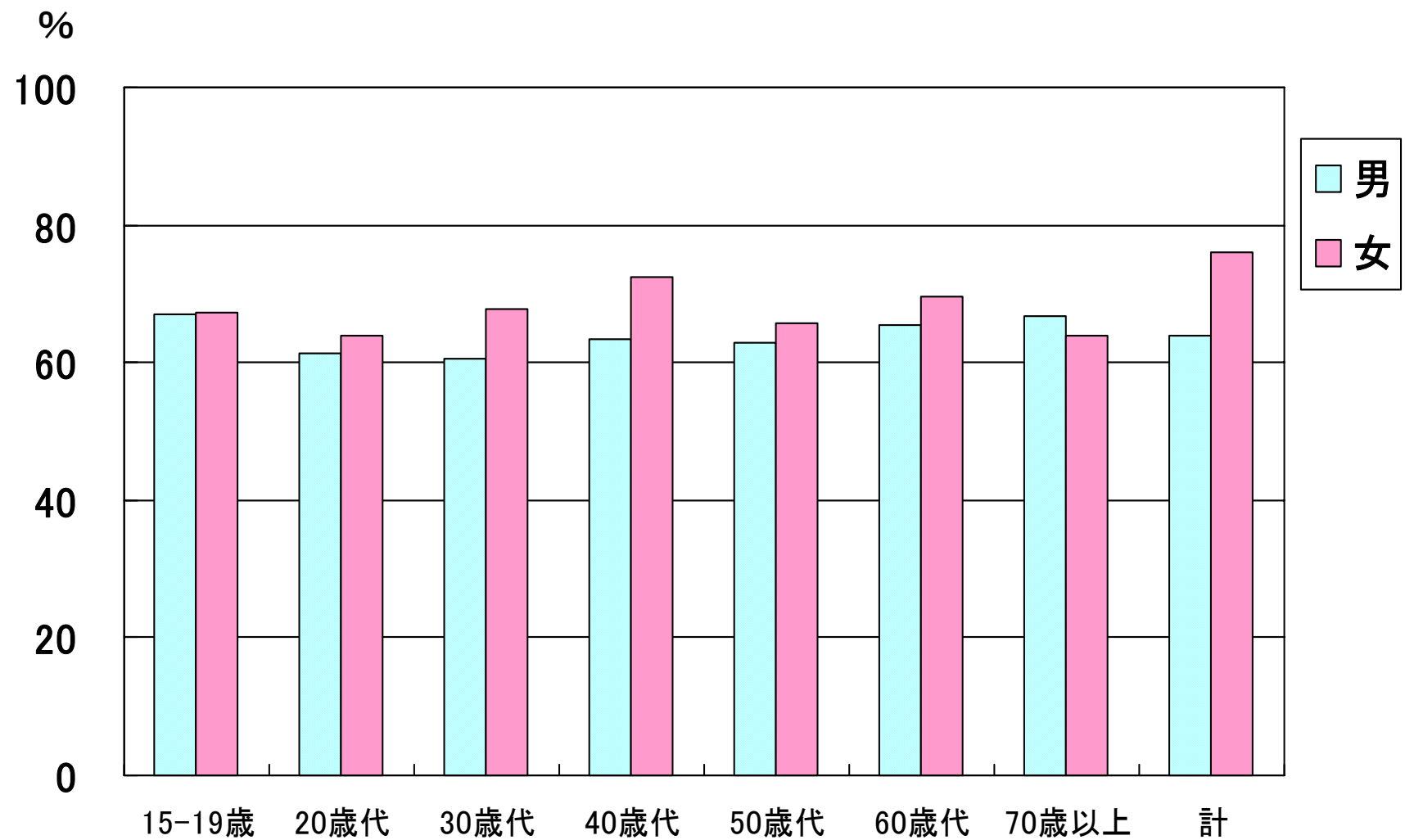
図4 喫煙により喘息にかかりやすくなると回答した者の割合



(平成15年国民健康・栄養調査)

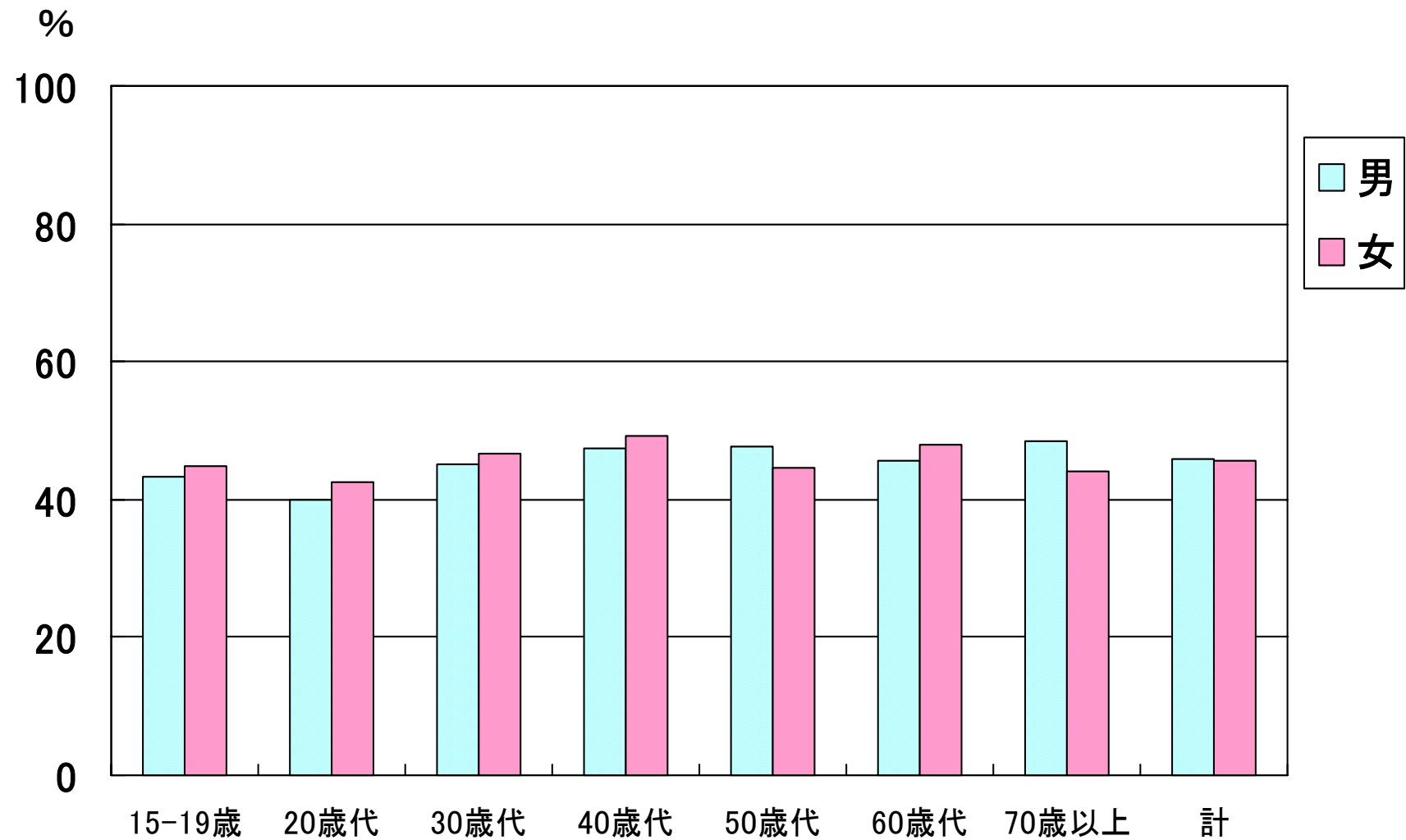


図5 喫煙により気管支炎にかかりやすくなると回答した者の割合



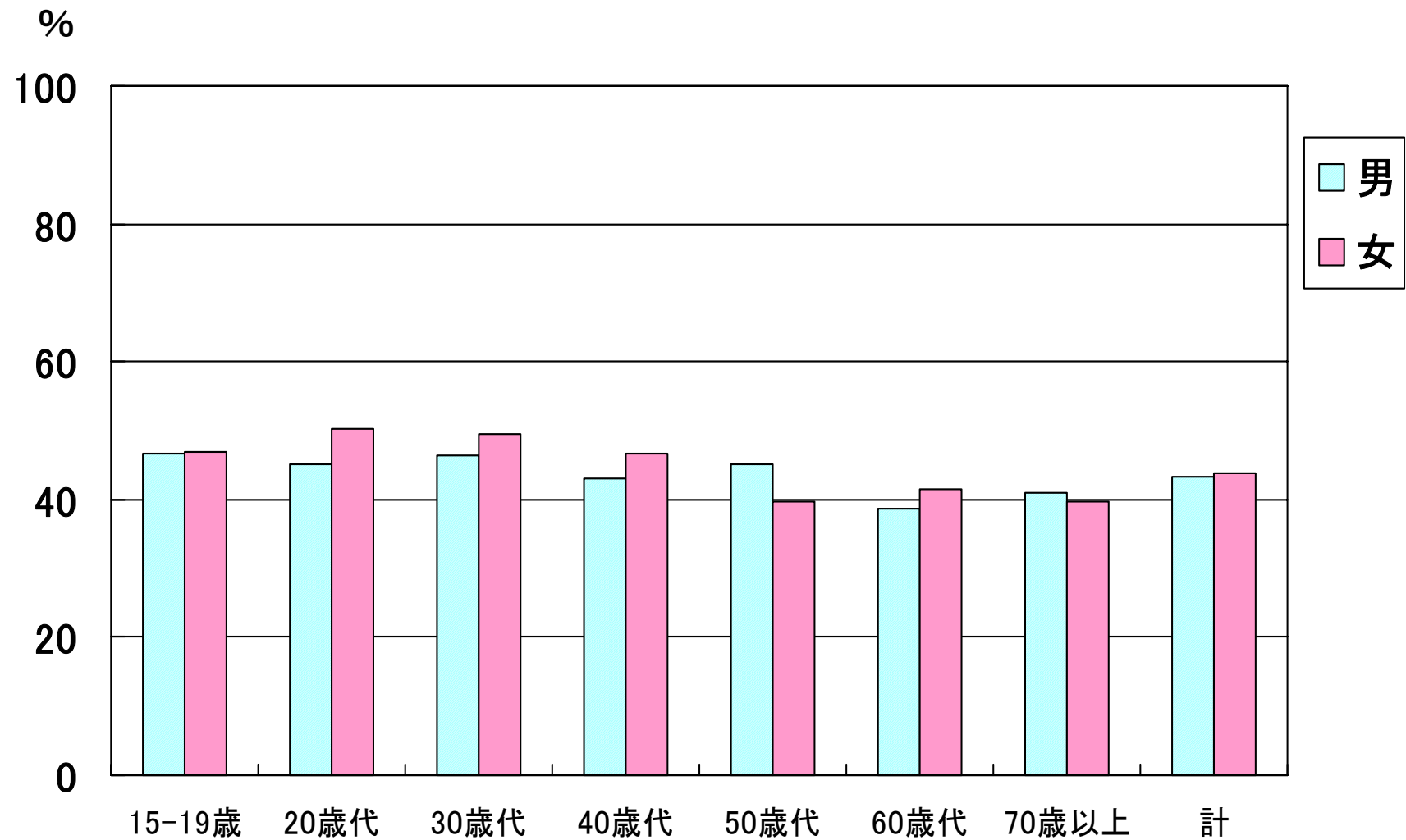
(平成15年国民健康・栄養調査)

図6 喫煙により心臓病にかかりやすくなると回答した者の割合



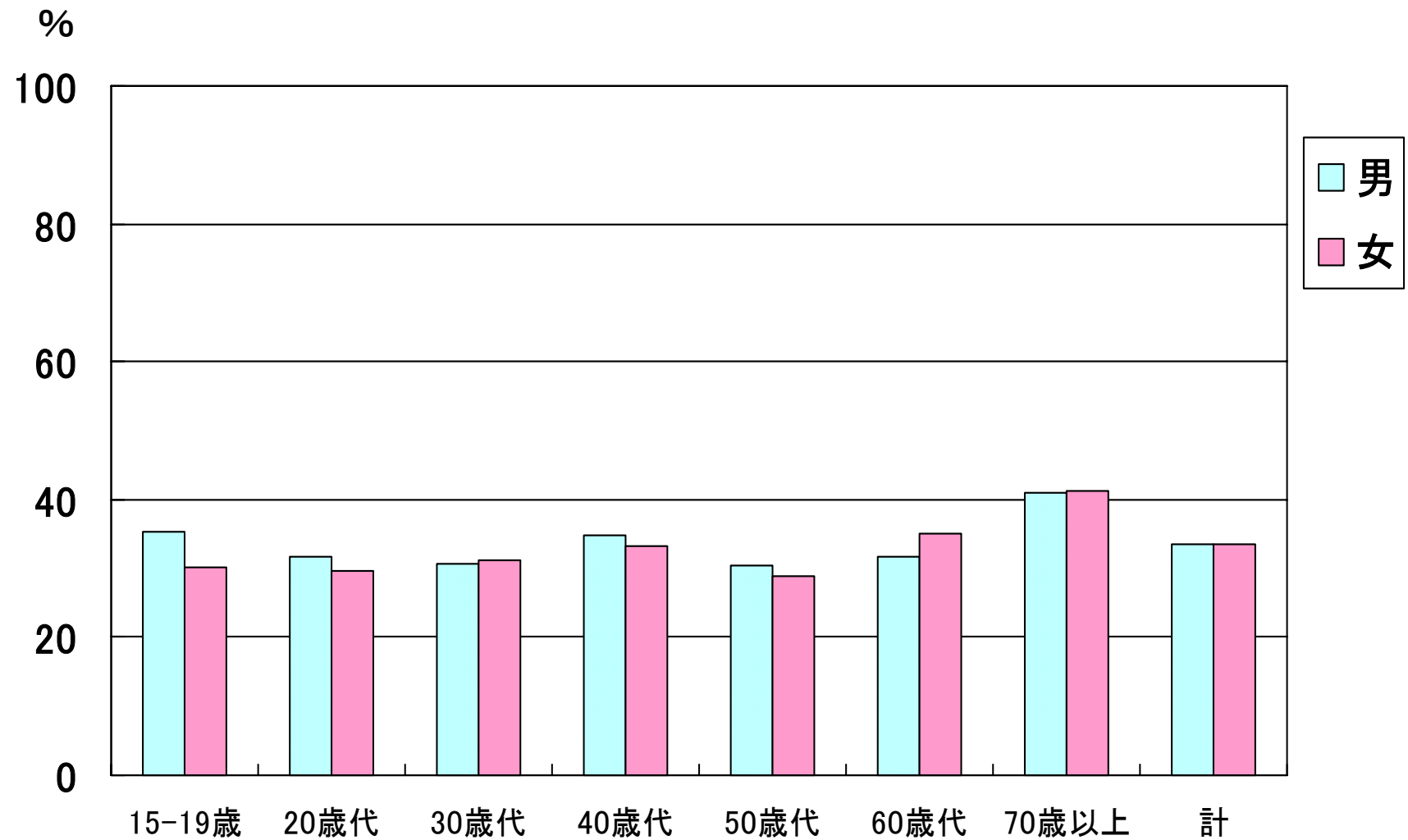
(平成15年国民健康・栄養調査)

図7 喫煙により脳卒中にかかりやすくなると回答した者の割合



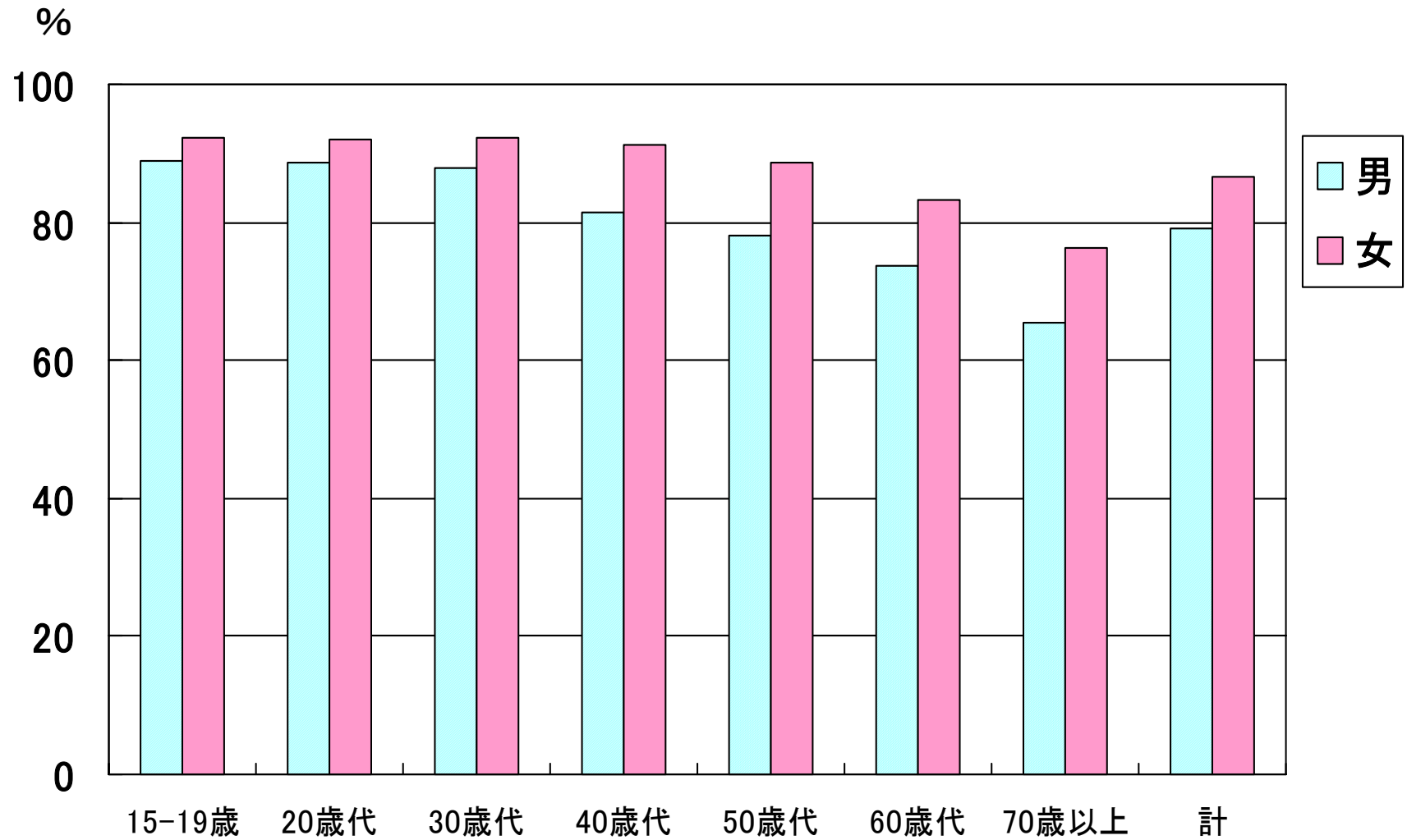
(平成15年国民健康・栄養調査)

図8 喫煙により胃潰瘍にかかりやすくなると回答した者の割合



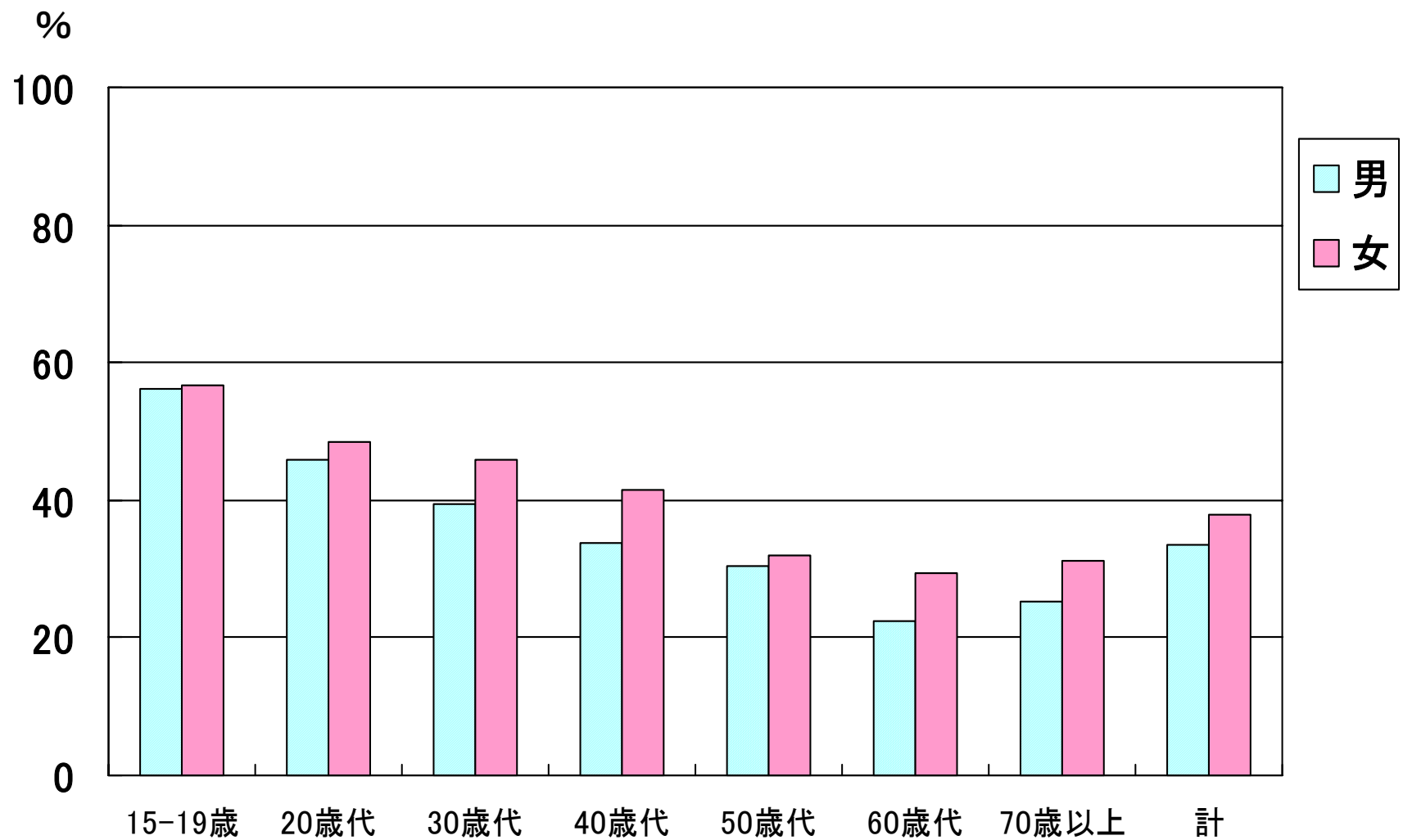
(平成15年国民健康・栄養調査)

図9 喫煙により妊娠に関連する異常を起こしやすくなると回答した者の割合



(平成15年国民健康・栄養調査)

図10 喫煙により歯周病にかかりやすくなると回答した者の割合



(平成15年国民健康・栄養調査)